

コープ自然派自然派事業連合 2024 GMナタネ自生調査報告

コープ自然派奈良 理事・杉山 千尋

今年度もコープ自然派各生協にて自生ナタネ調査を実施しましたので、神戸港周辺及びコープ自然派5生協での調査結果を報告いたします。

【神戸港周辺】

4月22日に長年調査を継続している日本最大のナタネ荷揚げ港である兵庫県の神戸港周辺にて調査を行いました。阪神深江駅から神戸港周辺を歩き、食品コンビナート工区を走る幹線道路の沿道に自生していた西洋ナタネ、アブラナ科の植物を合計5検体採取しました。検査結果は、5検体のうち3検体から除草剤耐性の陽性反応が検出されました。ラウンドアップ耐性が2検体、バスタ耐性が1検体です。港からは少し離れた場所にある運送会社の駐車場の端から採取された検体からも陽性反応が検出されたことに衝撃を受けました。運送会社の駐車場ということから、今回は抜き取ることができましたが、知らずにこのまま自生していた場合、ここから更に広域への汚染拡大の可能性が懸念されます。

神戸港周辺では、2019年のGMナタネ自生調査で採取した検体の75%が陽性だったことから、神戸市環境局と製油工場に再発防止と管理の徹底を求めて申し入れを行って以来、製油工場と継続して連絡を取り合うようになりました。今年も職員の方が調査に同行して下さり、陽性反応が検出されたことも直接ご確認いただき「今後も定期的な確認と清掃活動を継続していきたいと考えております。また、検査キットを使用しての確認作業も拝見させていただき、勉強になりました。」とのコメントをいただきました。

神戸市深江浜第四工区では、以前より各企業による清掃作業が行われていましたが、2019年以降は特に、各社の連携強化を行うと共に製油工場では除草活動を強化し、社員には資料による教育を行うなどGMナタネ自生の環境影響問題への意識を高める努力をされています。私たちが調査を行った日も沿道の企業が清掃活動をされておりました。沿道は、一見アブラナ科の植物は見当たらないくらいきれいに清掃されおり、検体として採取したアブラナ科の植物も小さい物ではありましたが、今後もGMナタネが自生し環境へ影響を与えることが無いよう、調査の継続と製油工場および周辺企業と連携・協力していきたいです。



【コープ自然派京都】 検査日 2024 年 5 月 29 日 2 検体：全て陰性
採取地：京都府綴喜郡井手町、京都府京都市鴨川の河原

【コープ自然派おおさか】

- ・おおさか 検査日 2024 年 4 月 22 日/6 月 11 日 3 検体：全て陰性
採取地：大阪府柏原市河原町、大阪府大阪市阿倍野区 2 か所
和歌山県紀の川市登尾、和歌山県岩出市境谷
- ・和歌山 検査日 2024 年 6 月 11 日 2 検体：陰性、1 検体：ラウンドアップ・バスタ無効
採取地：和歌山県和歌山市(和歌山港)

【コープ自然派兵庫】 検査日 2024 年 4 月 22 日 3 検体：全て陰性

採取地：神戸市東灘区甲南町 5-2 (2 号線中央分離帯)、神戸市北区八多町河川敷、
神戸市北区八多町畑付近

【コープ自然派奈良】 検査日 2024 年 5 月 9 日 2 検体：陰性、2 検体：ラウンドアップ無効
採取地：田原本町十六面、桜井市生田、奈良市内阪奈道路脇など 2 か所

【コープ自然派しこく】

- ・えひめ 検査日 2024 年 4 月 16 日 5 検体：全て陰性
採取地：松山市内 2 か所、新居浜市阿島、西条市小松町北川、今治市玉川町龍岡
- ・オリーブ(香川) 検査日 2024 年 4 月 16 日 5 検体：全て陰性
採取地：高松市内 2 か所、三豊市詫間町、坂出市内 2 か所、
- ・高知 検査日 2024 年 4 月 15 日 5 検体：全て陰性
採取地：高知市内 4 か所、香美市土佐山田町栄、
- ・徳島 検査日 2024 年 4 月 15 日 5 検体：全て陰性
採取地：鳴門市大麻町、徳島市、小松島市、国府町、佐那河内村

～まとめ～

コープ自然派全体で合計 40 検体(神戸港 5、しこく 20(各県 5)、兵庫 3、おおさか 6(大阪 5、和歌山 1)、京都 2、奈良 4)の調査を致しました。各生協では、イベントとして自生ナタネの検体採取や検査を行ったり、会議の中で組合員と一緒に検査をしたり、組合員通信などを通じ GM ナタネ自生調査活動の案内をすることにより、GM ナタネの自生問題への関心を高め、調査費用のカンバもしていただくことができました。

GMO の問題だけではなく、ゲノム編集食品や重イオンビーム育種米、フードテックなど食を取り巻く環境に増々危機感がつのる中、次世代へ安心な食の未来を手渡せるよう今後もさらなる地道な調査と啓発活動を継続していく重要性を強く感じました。

2024年度 グリーンコープ共同体自生GMナタネ汚染調査活動報告

2025年2月14日

グリーンコープ共同体

グリーンコープは、遺伝子組み換え作物（GMO）やゲノム編集食品は、一貫して「いない」「食べない」「作らせない」運動を続けています。2005年春から全国一斉にスタートした自生GMナタネの調査活動は、今年で20年目になります。グリーンコープの調査の詳細については、別冊「2024年度自生遺伝子組み換えナタネ汚染調査」をご覧ください。今年も14単協で227ヵ所を調査し、一次検査で18検体からラウンドアップ耐性（疑陽性）、11検体からバスタ耐性（疑陽性）の陽性反応があり、新たに一つの県でGM検体（擬陽性）が確認されました。6月24日（水）に開催した「自生GMナタネ汚染調査報告会」（ハイブリッド開催）では、120名を超える組合員が参加し、天笠啓祐さんから「遺伝子組み換え・ゲノム編集食品の最新情報」についての講演と、今年度陽性反応が出た5単協より以下の報告をいただきました。

<グリーンコープ生協おかやま>

おかやまでは、2月中旬から3月中旬にかけてナタネの調査を実施しました。広報誌グリーンレターやチラシを配布したり、メールを送るなどして組合員に参加を呼び掛けています。

また、ナタネ調査の案内と同時に環境カンパの協力も呼びかけています。おかやまには、遺伝子組み換えナタネの水揚げ港が2ヵ所（水島港と宇野港）あり、毎年、これら2つの港の周辺と岡山市東区にある飼料工場に向かう幹線道路沿いを調査しています。宇野港では、複数のナタネを抜き取り、その中から3検体を検査したところ1検体にバスタ陽性、もう2検体からはラウンドアップ陽性の反応が出ました。さらにラウンドアップ陽性の1検体からはバスタ擬陽性反応も出ました。今回の調査は、継続して検査を行なうことの大切さを再認識する機会になりました。

<グリーンコープやまぐち生協>

やまぐちでは、今年度も遺伝子組み換え問題を身近に引き寄せ、遺伝子組み換え反対運動の必要性を実感するために、県内11か所の主要道路沿線で自生しているナタネを採取し自生GMナタネ汚染調査を行ないました。昨年、県内で初めての陽性反応に続き、今年も陽性反応が出たことでしっかりと根付いてしまったのではないかと危機感をおぼえました。山口南地区で調査を行なった国道2号線は、大阪から福岡までを横断する主要道路です。調査活動を継続して行なっていく意義をしっかりと理解することができ、私たちの身近な地域に遺伝子組み換え作物が自生してしまっていることを多くの方に伝えていきたいとも思いました。今後も陽性だった場所のナタネの抜き取りや拡がりを知る調査活動をしっかりと続けていきたいと思えます。

<グリーンコープ生協ふくおか>

5月20日に九州唯一のナタネ荷揚げ港である箱崎ふ頭をメーカーや組合員総勢57名で数人ずつの班に分かれて様々なルートを手分けして抜き取り調査を行ないました。道路の隅には砂のようにこぼれ種が集まっていて、カイワレ大根のようなナタネが生えていました。また、他の場所では種子付きのさやをつけたナタネを確認しました。ひよろひよろのナタネでも陽性反応が現れ、どれもラウンドアップ耐性陽性かバスタ耐性陽性のどちらかに反応がでました。ナタネはアンローダという機械で船から直接トラックに積み込むこともあれば、直接ベルトコンベアで運ぶこともあり、アンローダのすぐ近くのベルトコンベアの下には草一本生えていませんでした。こぼれ落ちやナタネも生えておらず清掃の行き届いたきれいな状態でした。これはひとえに私たちが年に数回この場所を訪ね活動してきた結果の美しさだと感じました。これからもみなさんとともに「遺伝子操作された食べものを食べない、売らない、作らない」を貫いていきたいと思えます。

<グリーンコープ生協くまもと>

これまでの調査活動において培ってきた、自治体や議員の方々との関係性を大切に思い、繋が

りのある役所の職員や町議の方々と活動組合員と一緒に調査を行ないました。残念ながら同行調査のスケジュールが合わなかった、自治体へは陰性との検査結果を文書で報告しました。今年度、初めて調査活動を行なった委員も多く、調査の趣旨や危険性を知ることにより意義や目的を理解する良い機会になったと思います。くまもとは、活動組合員はもとより地域の方にも広く関心を持つきっかけとなるように広報誌「グリーンたいむ」で地域の組合員に調査の呼びかけを行なっています。今年度は熊本・有機の学校給食を考える会がグリーンコープのお店にて検査を実施しました。また、崇城大学S C B放送局の大学生たちと八代港飼料工場付近でハマダイコンの採取・調査を一緒に行ない、その様子は大学生により取材されYouTubeで配信されています。次世代を担う若者が関心を持ってくれたことは、運動が広がったと感じられ大変喜ばしく思います。2年前にラウンドアップ陽性が出た八代港近く氷川大橋袂のナタネを危機感を持ち採取し、八代港飼料工場付近と合わせて5つの検体を後日くまもと本部にて、熊本県農林水産政策課・グリーンクラブ・崇城大学S C B放送局とグリーンコープが集まり検査を行いました。その中の検体ひとつが擬陽性となり二次検査を行い結果は「陰性」と分かり安心してことができました。

今年度の調査活動を通して自治体と市民が様々につながり合えたことは大きな収穫だったと考えます。この運動を広げられるように次年度も取り組んでいきたいと思っています。

<グリーンコープ生協みやぎき>

宮崎県はたくさんの港がありますが、ナタネの荷揚げや大きな製油工場も特になく、調査場所の選定に迷ったので地区委員がナタネの咲いている場所をさがして調査を行ないました。川沿いや空き地は景観のために種を撒いている場所もあり、どの個体が自生なのか分からないことも多々あります。温暖な宮崎県は、例年1月中旬位からナタネが咲いていて、キットが到着した頃にはナタネはほぼ種になって花をさがすのが難しい状況でした。宮崎市内の南に位置する清武町で、ラウンドアップの擬陽性が出ました。特に疑わしくない場所でラウンドアップの擬陽性反応が出たことと、今まで陰性反応ばかりだったことも重なって大変驚いています。二次検査の結果を大変心配しています。宮崎の地域性として畜産が盛んであることから、牛や豚、鶏などの飼料に含まれているGMナタネがこぼれ落ちて発芽した可能性が高いと考えています。いつ陽性反応のナタネが見つかってもおかしくないのは全国共通だと思いますが、今後も地元に住んでいる組合員によって調査を続けていくことがとても大事であると感じています。

<おわりに>

GM作物が栽培されて20年以上が経過し、除草剤ラウンドアップの主成分グリホサートは農業のみならず身の回りでも使用され、私たちの健康や環境を危険にさらしています。更にはゲノム編集食品が表示義務のないまま続々と認可されつつあり、消費者の選ぶ権利がないがしろにされています。どの生物、作物にも、壊してよい遺伝子などありません。遺伝子組み換え食品もゲノム編集食品も私たちはいりません。昨年で開催された「第18回GMOフリーゾーン運動交流集会inくまもと」では、テーマ「未来の食を守りたい、そのために今できることを考え、行動していきたい」との思いを全国の仲間と共有する場となりました。また、複数の単協では、学校給食に有機食材や国産の食材に切り替える要望を行政に届けるなどの運動を展開しています。表示制度の改定により「遺伝子組み換えでない」という食品表示がほとんどできなくなり、消費者の選ぶ権利が奪われている問題があります。ゲノム編集食品については、これまで6品目の販売の届出が申請され、さらにたまごや稲などの研究も進められています。今回の全国報告会で改めて自生GMナタネ汚染調査活動の20年間の歩みを振り返り、今後に向け、全国のみなさんと共にGMナタネ汚染調査活動やGM食品、ゲノム編集食品への反対運動を力強くすすめて、遺伝子組み換え反対運動に関わる仲間を増やし、未来の子どもたちの食卓と環境を守りたいと考えます。

以上

第27回遺伝子組換えナタネ採取隊 in 三重県

三重県国道23号 四日市市『昌栄町』～津市『上浜町三』 2024/3/31



- 西末広町 A班
- 南玉垣町
- 江島台二 B班
- 寺家五 C班
- 東千里 D班
- 上野南
- 一色 E班
- 逆川神社前 F班
- 上浜町三



遺伝子操作食品を考える中部の会では、2024/3/31、第27回遺伝子組換えナタネ採取隊を、三重県の国道23号の四日市市『昌栄町』～津市『上浜町三』までの約26Km区間で、一般募集の方を含め、30名の参加者で調査・採取駆除を行いました。

今回の採取隊では、雑種と思われるナタネ1本を含む、519本のナタネを採取駆除しました。ただし、中央分離帯のセイヨウナタネについては、危険を伴うため採取作業は行わず、目視による自生本数(65本)の確認のみとしました。

採取をした518本のセイヨウナタネのうち、76本について、試験紙による簡易検査を行いました。

その結果、51.3%がGM陽性(ラウンドアップ耐性:38.2%、バスタ耐性:14.5%)でした。

そのうち、雑種を疑わせるD031と両除草剤耐性を示したF009について、農民連食品分析センターにPCR検査を依頼したところ、同様の結果が得られました。

今回は、参加人数が30名と比較的少人数での採取隊となりました。そのため、各班の行動距離を長くとしたこともあり、採取作業は国道23号の東側歩道しか行いませんでした。

さらに、中央分離帯での採取作業は、参加者の安全を考慮し、目視による本数の確認のみにとどめたため、採取本数は実際より少ない数となりました。

●RR、LL耐性の個体数について
過去10年以上、除草剤バスタ耐性リパティリンクの確率が高かったのに対し、ここ2年ほどはラウンドアップ耐性の個体数が逆に増加しています。カナダでのGMナタネの作付けの多くが、再び、ラウンドアップ耐性に移行しているのかもしれない。



第27回 遺伝子組換えナタネ採取隊											2024/3/31	
四日市市『昌栄町』～津市『上浜町三』(国道23号線)											備考	
班	参加人数	採取区間	セイヨウナタネ			検査結果		アブラナ科植物/雑種			検査結果	
			歩道	分離帯	検体	RR+	LL+	歩道	分離帯	検体	RR+	LL+
A	4	四日市市『昌栄町』～鈴鹿市『南玉垣町』	231	9	10	3	2					
B	6	鈴鹿市『江島台二』～『寺家五』	23	2	15	5	2					
C	3	鈴鹿市『寺家五』～『東千里』	125	25	15	4	1					
D	3	津市『東千里』～『上野南』	59	14	10	4	2	1	0	1	0	1
E	4	津市『一色』～『逆川神社前』	59	11	13	6	2					
F	3	津市『逆川神社前』～『上浜町三』	21	4	13	7	2					
運転手	6	採取数合計	518	65	76	29	11	1	0	1	0	1
本部	1	確認数合計	583			計 39		計 1		計 1		
計	30	RR:ラウンドアップ耐性GMナタネ LL:バスタ耐性GMナタネ 採取区間の『』は交差点名を示す	GM確率			38.2%	14.5%	GM確率			0.0%	100.0%
			GM確率			51.3%	GM確率			100.0%		
採取数総合計: 519本												

●試験紙の感度バラつきについて

ここしばらく、簡易検査に使用するイムノクロマト法試験紙の感度に大きなバラつきがみられ、検査の精度が落ち、正確な結果が出るまでかなりの時間がかかってしまう傾向があります。そこで中部の会では、今回の採取隊から、検査に使用した試験紙を台紙に貼り、時間経過の後にも再確認できるようにしました。

今回使用した試験紙は、A、B班では、RR検出用が Neogen 社製、LL検出用が Romer 社製、C～F班では、RR、LL検出用ともに Romer 社製 でした。とくに、Neogen 社製の試験紙は感度が悪く、検査の終了を示す指標線が不鮮明または現れない例が多くみられます。

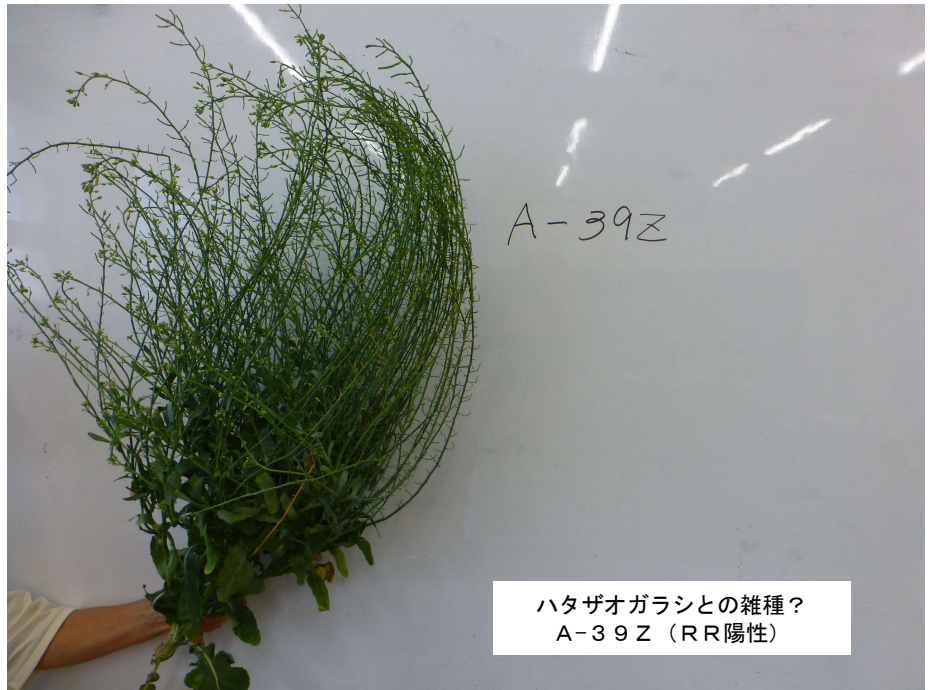
検体のナンバリングについて

検体番号は、例として、240331-D031と表記し、調査の日付と班を特定できるようにしました。ただし、本文中では日付は省略しています。

三重県国道23号 雑種ナタネ調査

鈴鹿市『北玉垣町北』～津市『上浜町三』

2024/7/21



ハタザオガラシとの雑種？
A-39Z (RR陽性)

中部の会では、雑種ナタネの調査は、GMナタネ採取隊の実施時期より、3か月以上遅く実施しています。

これは、雑種ナタネの自生が確認できるようになるのが、梅雨から梅雨が明けるところになってからと、セイヨウナタネより、3か月あまり遅れるためです。

今回の雑種ナタネ調査は、7月下旬の猛暑日となりました。にもかかわらず、少なからず、雑種とみられるナタネが確認されました。

鈴鹿市『北玉垣町北』→津市『上浜町3』												
班	参加人数	採取区間	セイヨウナタネ			検査結果		アブラナ科植物/雑種?			検査結果	
			往路	分離帯	検体	RR+	LL+	往路	分離帯	検体	RR+	LL+
A	3	鈴鹿市『北玉垣町北』～『磯山2』	57	2	20	2	3	5	1	6	1	0
B	2	鈴鹿市『磯山2』～津市『上浜町3』	17	0	2	1	0	2	0	2	1	0
運転手	2	合計	74	2	22	3	3	7	1	8	2	0
本部	0		計 76		計 6		計 8		8		計 2	
計	7		GM確率			13.6%	13.6%			GM確率	25.0%	0.0%
採取総計			84			27.2%				25.0%		



鈴鹿市武道館付近



ハタザオガラシ

今回の調査は、過去、比較的多くの雑種ナタネが確認されているエリアを中心に、鈴鹿市『北玉垣町北』交差点から、津市『上浜町3』までの約16 Kmの区間で実施しました。参加は中部の会会員7名と少人数のため、走行する車中からの目視による自生を確認したうえで、徒歩による調査を実施しました。

●調査の結果

採取したナタネ84本のうち、雑種とみられるナタネは8本。うち、簡易検査の結果、セイヨウナタネでは、22検体中、RR、LL陽性いずれも3本ずつ。雑種ナタネでは、8検体中、2本がRR陽性でした。

今回の調査では、RR、LL陽性である確率が、セイヨウナタネで27.2%、雑種ナタネで25%と、通常と比べて低い値となりました。

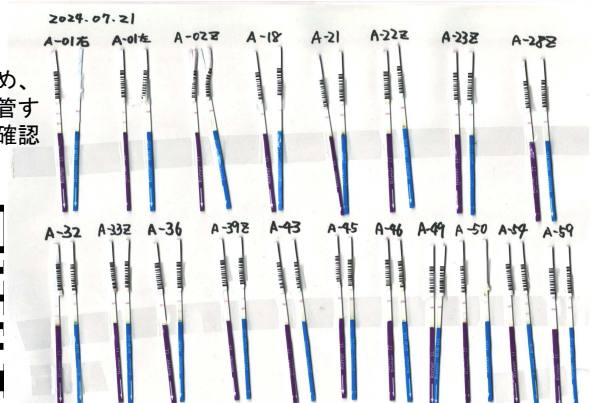


↑雑種ナタネの見分け方：
<https://gm-chubu.sakura.ne.jp/zasshunatane-miwake.htm>

ハタザオガラシとの雑種
<https://gm-chubu.sakura.ne.jp/110703-hatazaog.htm> →

●使用済み試験紙について

最近、簡易検査用の試験紙の感度に問題が発生したため、中部の会では、使用済みの試験紙を台紙に添付し、保管するようにしました。こうしておくと、後で検査結果を確認することができます。



↑ティッシュなどで使用済み試験紙の水分をとり、台紙にテープで貼り付け、乾燥する

本年1月より、
遺伝子組換え食品を考える中部の会 から
遺伝子操作食品を考える中部の会 と改称しました。